

介助方法のポイント

我が国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年に、超高齢社会を迎えることとなります。また、医療や介護が必要な状態となっても、住み慣れた自宅で生活を継続していく在宅医療も推進されており、今後、介助する機会も増えていく事が予想されます。

介助を行う上でのポイントを知る事で、介助者も介助される側も負担が減り在宅生活の継続に繋がると考えます。今回は介助の場面で良く見られる起き上がりや車イスへの乗り移りでの介助のポイントを解説します。

介助時の注意

- ✓ 介助される本人の能力も最大限に利用する
(過介助とならない)
- ✓ 介助はゆっくりと行う
(事故や怪我の防止)
- ✓ お互いの体は出来るだけ近づける
- ✓ 1人で無理な場合は他の方法を検討する
(複数人での介助、介護保険サービスの利用、福祉用具の利用など)



起き上がり介助

POINT

- 足の重みを利用し、おしりを軸にして頭が弧を描くように起こす
(この原理を意識)
- 腕と手でしっかり支える



寝返り介助

POINT

ベッドと体の接触面を小さくする



車イスへの乗り移り動作

POINT

準備をしっかりと行い、出来るだけ近づいて介助を行う



準備



福祉用具の紹介

福祉用具を上手に利用することで介助に伴う負担が軽減できます。

スライディングシート



ベッドの上での移動が楽に行えます

トランスファーボード



ボードの上をお尻で移動し乗り移れます

移乗用リフト



リフトでつり上げて乗り移れます

はじめてリハビリテーション科です



淡海ふれあい病院のリハビリテーション科には14名のセラピストと3名の介護福祉士が所属しています。入院患者さんのリハビリ以外に、院内デイケアや集団リハビリの運用・退院支援・転倒転落予防の活動に取り組んでいます。

